

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 4 月 23 日									
法人名	社会福祉法人こばと会福祉									
代表者(理事長)名	中路 實									
介護保険事業所番号	2	7	7	1	6	0	1	9	7	4
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホームたんぽぽ									
事業所所在地	大阪府吹田市山田東2丁目31-5									
記入担当者職・氏名	(職) 介護主任 (氏名) 牟田 紗枝子									
連絡先電話番号	06-6816-3810									

自己評価項目構成

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

- 運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください。
- その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- 優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に基づく運営方針に「地域の人々に支えられ、自由に出入りできる開放的なホーム運営を行います」「地域高齢者の生活問題と向かい合い、安心できるちづくりを目指します」と挙げています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに理念、方針を掲示しています。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレット、事業報告書・事業計画書に記載し、必要に応じて家族懇談会等において説明しています。また、玄関、フロアに掲示し、いつでも目にとまるようにしています。	○
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の折、道行く方や畑仕事の方とあいさつ、言葉を交わすことを心がけています。近隣の和菓子屋さん喫茶店、スーパーの方とも顔なじみになってきています。幼稚園の頃、遊びに来始めた近隣のお子さんが、今は小学校2年生ですが、今でも時折友達を誘って訪れます。	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、自治会運動会、伊射奈岐神社秋祭り、山田高校文化祭などに出かけています。2006年度は介護相談員さんの提案と案内で老人大学文化祭に出かけました。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2006年度具体的に取組んでいくこととして「地域に向けてたんぼぼが持つ専門性を活かした取り組みを検討します」を挙げました。2006年度は、吹田市の諸団体の地域活動に参加し、高齢者の生活、問題解決に向けて吹田市への要望書などに取り組みました。2007年度も引き続き取り組んでいます。	○	2007年度は、地域においてできること、必要とされていることを運営推進会議、運営会議で検討していきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	2006年度評価の改善点を検討、改善しました。意見交換をすることによって服装については他事業所との交流から新たな視点に気づきました。また、他の項目についてもたんぼぼでの考え方、こだわりを確認することができました。	○	自己評価の項目、外部評価の結果をテーマにした意見交換の機会を設けていきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2006年、準備期間を経て、連合自治会長、福祉委員シルバードバイザー、PTA会長、公民館長、近隣の寺院の方、社会福祉協議会CSW、家族の方々の理解と協力を得て、11月より運営推進会議を開催しています。	○	2006年度の結果を配布し、外部評価を受けていることを報告したにとどまっています。2007年度は評価結果について具体的に説明を行います。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員による部会を設けています。サービスの質の向上に向けて様々なテーマで意見交換、学習会を行っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケアプランとして権利擁護の必要について意見がでていたものの実施にはいたりませんでした。	○	権利擁護について詳しく知識をもつための学習会。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念において、虐待はあってはならないものであり、理念に基づいた支援を目指しています。	○	法律に基づいた知識を学ぶ学習会。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>介護相談員の報告書を各ユニットに回覧し、共有できるようにしています。職員の気づきのきっかけのひとつになればと思います。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族、家庭の事情で離職をやむをえない場合が多くあります。理由をよく聴くことで、離職を最小限にとどめる努力をしています。2006年度異動はありません。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	終業前のオリエンテーション、OJT、経験別、課題別研修を実施しています。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市介護保険事業者連絡会、吹田市地域ケア会議、21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会に所属し、会合、研修、交流会に参加しています。老副連交流会では毎回レポート発表を行っています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	労働組合との懇談会を実施し、職員の問題等を把握しています。	○	法人内での相互研修、メンタルヘルス学習会
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員研修会、職員の個別面談、法人内管理者会議を実施しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から相談を受けた場合、可能な限り本人の見学を薦めています。入居前に、自宅に本人を訪ね信頼関係、安心を気づけるようにコミュニケーションをとるとともに、生活の様子を把握するよう努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話、訪問による相談に随時対応しています。尋ねられた内容で確信が持てない場合は、調べた後連絡をしています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性が高いと思われる方、経済的な面等により、事業所連絡会の特定有料老人ホームや特養の情報を提供しています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「通い」から「泊まり」を経験することで、グループホームに馴染めるようデイサービスと連携をとっています。日頃から、デイサービス利用者がグループホームと行き来をすることで馴染みがつくれるよう心がけています。	○ 短期利用共同生活介護を利用しながら、抵抗少なく入居へつないでいきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がよく口にする教訓やしきたりの話を傾聴するなかで、職員が学ぶことが多くあります。寒暖、味、花や音楽の美しさなど五感を通じて共通の痛みや喜びを分かち合うよう意識的に努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や変化をできる限り伝え、心配や喜びを共有するため、記録の中の家族へ伝えたい部分にアンダーラインを引き、家族へ伝える内容を職員間で共有し、いつでも誰でもがどの家族にも伝えられるようにしています。	○	職員と家族がじっくり話すことができる機会を望みます。家族には職員と一緒に本人を支えていく立場であることを共有して欲しいと思います。本人と同じ目線に立って欲しいと思います。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族がともに外出し、昔のように楽しい時間を共有できるよう準備、家族への後押しの支援をしています。	○	取り組みをさらに積極的に進めていきたいと思えます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	限られたものにとどまっています。	○	加入していた老人会の仲間、教会関係者への働きかけ。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然な関わりを大切にするよう努めていますが、トラブルになることが多く、その回避に終始することが多い現状です。	○	トラブルも含めて人間としての関わりをさらに重視していきます。人間関係づくりを1ユニットに限らず他のユニット、デイサービスを含めて考えます。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	サービス終了ケースが存在しませんが、行事などを案内し、退去後のつながりを大切にしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりを大切にしています。思いや意向の把握が困難な利用者はこれまでの生活や好みを知ったうえで本人に最もよいと思われるものを選択しています。	○ センター方式の学習
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人別にフェイスシートをファイリングしています。	○ センター方式の学習
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	運動、排泄、水分量、休息时间などと混乱、不穏な状態の関係性をつかむようにしています。	○ 身体状況と混乱、不穏の状態の関係性がマニュアル化しないよう、常に新鮮な視線を向けていたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、担当者の意見やカンファレンスの内容を反映しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを要するものはカンファレンスを行い、その時の状況に応じたケアを行えるよう柔軟に対応しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護記録、カンファレンス・モニタリングシートを介護計画の見直しに活用しています。	○	後にデータとなるための記録物の統一
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス利用からグループホーム入居に至った実績があります。	○	デイサービス利用者の希望があれば、ショートステイも受け入れていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の店に買物に行ったり、障害者、一般高齢者、要介護高齢者などが集まり、歌とリハビリを行う地域のサークルに毎月参加しています。近隣の喫茶店では事前に連絡することで、座席を優先して用意してもらえるなど協力を得ています。	○	図書館、公民館など地域の施設を積極的に利用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望する医療機関、馴染みの医療機関、事業所が契約した医療機関などを利用することで、適切な医療が受けられるように支援しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診には職員も同行し、日常の様子を伝えていきます。	○	専門医の受診が必要と思われる場合は、家族に相談しています。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤看護師を配置し、日常的に連絡相談を行いながら健康管理に当たっています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が決まればホームでの状況のサマリーを提供しています。入院中も家族と連絡を取り合いながら状況把握に努め、必要に応じて医師との面談を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	様態の変化に伴い、終末期のあり方についても必要に応じて家族と話し合い、確認をしています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要に応じて、看護師、医師、家族と話し合いながら対応を決めています。	○	重度化への対応について現状での限界、または今後の対応如何による検討事項を討議する必要があります。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	運動、排泄、水分量、休息时间などと混乱、不穏な状態の関係性をつかむようにしています。		住み替えの必要がある場合は、ダメージを防ぐため、本人、家族、職員、事業所間の連携をとり十分に検討を重ねます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物が利用者、職員、家族、訪問者の目に安易に触れないように、ステーション内で管理しています。	○	親しさあまっでの言動、プライバシー確保の再認識と職員の話し合い。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が理解できるかたちでの希望の表出や実行できる内容の希望が少ないため、職員が察し、判断することが多く、職員のひとりよがりにならないように留意しています。		選択肢を増やす。様々に対応できる力。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を引き出すことが困難な段階の方が多く、職員の思いが先行することが多くなっていると思います。		選択肢を増やす。様々に対応できる力。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	習慣の化粧やスキンケアを継続できるように努めています。理美容は事業所訪問の美容師により月1回行うにとどまっています。	○	地域の美容院または馴染みの美容院へ行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的には味噌汁作り、盛り付け、食器洗いなどを各々持てる力を活かせるように支援しています。	○	食事内容に選択メニューを取り入れたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、お菓子をいっしょに近隣の店へ買いに行っています。2ヶ月に1回、食事検討委員会において、個人、全体の食事について厨房と情報、意見交換を行い検討、実施しています。	○	積極的に外食を行いたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パット、リハパンの導入時期、扱い方についてカンファレンスを重ね検討しています。青汁、オリゴ糖、ヨーグルト、牛乳など食品による排便コントロールを支援しています。	○	衛生用品のコストの見直し。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を引き出すことが困難な段階の方が多く、職員の思いが先行することが多くなっていると思います。	○	希望の時間などに柔軟に対応できる力。銭湯や温泉に行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	物音や明かりに配慮しています。職員の声のトーン、言葉など安心できる声かけを心がけています。	○	物、人の環境について再認識と職員間の話し合い。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々持てる力に応じた役割づくり。音楽。計算、デッサン、散歩など各々の好みを生かした楽しみごとを投げかけています。	○	センター方式の活用


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物では本人が支払えるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や喫茶店へ行くなど本人の希望に添って外出しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者と家族がともに外出できるように準備、家族への後押しの支援をしています。	○	さらに積極的に薦めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、希望時に随時対応しています。	○	届いた郵便に返信を行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会時にはゆっくと楽しい時間を共有できるようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束への理解し拘束しにケアに取り組んでいます。	○	法に基づいた学習を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険を伴わない限り本人の意向にできる限り沿うように心がけていますが、予側以外のことが起こるかもしれないとの危惧から、職員の都合になることもあります。	○	職員の意識の統一と話し合い。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	危険を伴わない限り本人の意向にできる限り沿うように心がけていますが、予側以外のことが起こるかもしれないとの危惧から、職員の都合になることもあります。	○	職員の意識の統一と話し合い。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なううものを取り除くことで生活らしさがなくならないよに安全な環境を整えることを考えています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	A D L、心理状態を検討しながら環境、手順の工夫を行っています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを作成しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災訓練を実施しています。緊急時、職員から家族への連絡応援体制をとっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	行動制限をおこなわないことによるリスクにつちて家族に説明、家族の思いを取り入れながら対応を検討しています。	○	職員の意識の統一。
る				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早急に変化にきづくために、日常の様子や健康状態を共有しています。変化を認めた場合、看護師に報告指示を受けます。	○	体調の変化や異変を早期に気づくよう職員のスキルアップ。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成、変更時に更新を行っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	それぞれに青汁、オリゴ糖、牛乳、ヨーグルトを利用し下剤の使用をできる限り減量しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、就寝前に口腔ケア、歯磨きを実施しています。また、月2回歯科により口腔ケアをうけています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は全員、水分量は必要に応じて行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ、ノロウイルスの時期には、その時々注意点、取り組むことを回覧し、意識を高めると共に、予防に取り組んでいます。	○	会議を利用し看護師より症状、注意点について説明を行っています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の定期的清掃、手洗い、調理後2時間以内に食す、食器、調理器具使用前のアルコール噴霧を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設敷地に門を設けず、誰もが自由に訪れることができるように心がけています。花壇、玄関周りは季節の花を植え、エントランスにも花を絶やさず、節句人形、利用者の書を飾るなど落ち着いた雰囲気演出を心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を扱う音、掃除機をかける音は最小限とするよう配慮しています。西日による強い光は、遮光のレースカーテンでやわらげています。好みや落ち着ける音楽を流したり、季節の行事にちなんだ飾り付けや昔を思い起こす飾り付けをしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの向きを工夫することで空間づくりを行っています。	○	現状にとどまることなく、常に見直し工夫をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	仏壇や家族の写真、絵画、ソファなど馴染みの ものや好みのもを取り入れています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	1日数回、午前午後に換気を行っています。室温 も季節や日々の気温に応じて調整しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	身体状況、ADLによって、安全を確保しながら 持てる力を活かせるように居室内の環境を整えて います。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	表札や顔写真、表記することによって部屋、トイ レ、浴室の位置、トレイレバーなどを示していま す。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	日常定に庭でに外気浴、ボランティアの協力によ る喫茶を庭やデイルームテラスで行っています。	○	前裁への空間をくつろげる環境にする。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

“ゆとり”をもっと大切にしています。静かな環境作りを心がけており、落ち着ける音楽を流すなどしています。職員は環境に大きな影響を及ぼす存在として、声のトーン、言葉遣い、作業時の雑音、歩き方動き方を心がけ、環境を悪化せないように、利用者の心を乱さないように配慮しています。